

研究種目：基盤研究 (B)

研究期間：2007～2010

課題番号：19300243

研究課題名 (和文) 情緒的自立に関する総合的研究

研究課題名 (英文) Interdisciplinary study of the independency in the relationship

研究代表者

畠中 宗一 (HATANAKA MUNEKAZU)

大阪市立大学・大学院生活科学研究科・教授

研究者番号：10141855

研究代表者の専門分野：家族臨床社会学

科研費の分科・細目：生活科学・生活科学一般

キーワード：情緒的自立、関係性のなかでの自立、家族発達、対人関係トレーニング、政策主体における自立

1. 研究計画の概要

情緒的自立を関係性のなかでの自立と定義し、これの尺度開発とそれを規定する要因に関する研究を出発点として、これの臨床と政策における点検作業を行い、同時にこれらの統合を志向する。臨床における点検作業は、家族発達や自己分化の概念を手がかりに事例研究を積み重ね、政策におけるそれは、政策主体が自立をどのように捉えてきたかを家族福祉や児童福祉、生活保護を中心に点検作業を行う。加えて関係性のなかでの自立を促進させる方法として対人関係トレーニングに着眼する。最終的には、臨床と政策の統合という視点から、関係性のなかでの自立としての情緒的自立の必要性を明らかにする。

2. 研究の進捗状況

関係性のなかでの自立尺度の開発は、それが「前向きに生きる」「自信をもって生きる」「ほどよい関係性を生きる」「自分らしく生きる」といった4つの概念から構成された尺度として信頼性と妥当性が担保された。(木村他、2008) この尺度を規定する要因として、メンタルヘルス(野原他、2009)、母親のウェルビーイング(川村他、2009)とそれぞれ、関連を見出している。加えて地域適応力をキーワードにした研究が進行中である。家族発達や自己分化を中心にした事例研究班は、22年度事例集を刊行予定(平木・中釜・友田編、2010)です。政策主体が自立をどのように捉えているかを検討する班は、家族福祉、児童福祉、生活保護の自立概念等の検討や自立支援ホームでの聞き取り調査を行ってきている。聞き取り調査は、この領域の研究の難

しさとも相俟って、必ずしも順調に進捗しているとは言い難い。対人関係トレーニング班は、日本 IPR 研究会に研究協力を依頼し、データを蓄積中である。これまで得られたデータから、ベーシック・トレーニングの開始前とメイン・トレーニングの終了時点で、関係性のなかでの自立が促進されることを確認している。加えて、『現代のエスプリ 対人関係トレーニング：IPR トレーニングのすすめ』495(至文堂：2008)を代表研究者の編集で刊行した。また代表研究者は、単著『富裕化社会で、なぜ対人関係トレーニングが必要か』(ぎょうせい：2009)を刊行した。

4つの研究班の中間的な総括として、『現代のエスプリ 関係性のなかでの自立：情緒的自立のすすめ』508(ぎょうせい：2009)を代表研究者の編集で刊行した。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進捗している。

その理由：富裕化社会は対人関係に抑制的に機能するという命題に倣えば、関係性のなかでの自立としての情緒的自立が困難な時代である。本研究は、臨床と政策の統合という視点から、関係性を生きることの困難を明らかにしてきた。加えて、それを打開する方法として対人関係トレーニングに着眼し、その効果を確認してきた。

4. 今後の研究の推進方策

政策は現実を後追いをすることを考えると、本研究での臨床的知見を、政策主体に提言することが必要である。加えて、関係性を生きることの困難を抱えている人々に、対人関係トレーニングの必要性を訴えることやそれ

を促進させるための財政的支援の枠組みを検討していくこと。さらには、臨床と政策の統合という視点の重要性を訴えていくこと。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

① 野原留美・畠中宗一「対人援助職(看護職)

のメンタルヘルスと関係性のなかでの自立との関連性に関する研究」日本精神保健社会学会編『メンタルヘルスの社会学』15 pp.28-39. 2009 査読有

② 川村千恵子・田辺昌吾・畠中宗一「乳幼児

をもつ母親の対人関係とウェルビーイングとの関連」日本精神保健社会学会編『メンタルヘルスの社会学』15 pp.40-48. 2009 査読有

③ 木村直子・田辺昌吾・野原留美・川村千恵

子・北川歳昭・川崎末美・畠中宗一「「関係性のなかでの自立」尺度作成に関する研究」日本精神保健社会学会編『メンタルヘルスの社会学』14、19-31 2008 査読有

〔学会発表〕(計1件)

① 日本家族心理学会第26回大会・大会企画シンポジウム「関係性のなかでの自立：肯定的な情緒関係と愛する力を育むために」(シンポジスト：平木典子・牧園清子・牧野智恵・木村直子；司会：畠中宗一) 2009

〔図書〕(計3件)

① 畠中宗一編『現代のエスプリ 関係性のなかでの自立：情緒的自立のすすめ』508 ぎょうせい 2009

② 畠中宗一『富裕化社会に、なぜ対人関係トレーニングが必要か』ぎょうせい 2009

③ 畠中宗一編『現代のエスプリ 対人関係トレーニング：IPR トレーニングのすすめ』495 至文堂

〔その他〕

<http://www.life.osaka-cu.ac.jp/index.html>